



ネパール大地震 現地視察報告

地震によって大きな被害を受けたネパールを支援するため、
2015年6月、現地視察を行いました。

2015年4月25日午前11時56分(日本時間午後3時11分)、ネパール中部(首都カトマンズの北西約80Kmの地点)を震源に、マグニチュード7.8の強い地震が発生しました。また、5月12日には震源域東端付近でマグニチュード7.3の余震が発生しました。ネパール当局によると、これらの地震によるネパール国内での死者は8,700人を越え(6月8日現在)、各地で大きな被害が確認されています。国内外から様々な支援が寄せられ、ネパールでは今後の復興に向けての取り組みが続けられています。



◎の地点が4/25の震源地

ネパール大地震現地視察日程

- 6/5(金) カトマンズ着
カトマンズ市内視察
- 6/6(土) カトマンズ市内視察
カッポン村学校視察
- 6/7(日) トゥリスリー診療所視察
- 6/8(月) ヌワコット市内視察
- 6/9(火)
JICA ネパール事務所長との会談
スシル・コイララ首相との会談
ネパール政府関係者との会談
- 6/10(水) カトマンズ発
- 6/11(木) 日本帰着

本協会とネパールとのかかわり

以下の事業の仲介と調整を行ってきました。

- ・**ゴルカの女性自立支援施設** 1990年(国際識字年)
「ばらの会しずおか」がゴルカに女性の自立支援施設「フレンドシップトレーニングセンター」を建設。
- ・**カッポン村の学校** 1990年(国際識字年)
県立沼津商業高等学校同窓会が同同窓会創立90周年記念事業としてカッポン村に学校を建設。
- ・**シンドゥパルチョーク郡の学校2校** 1998年
渡辺順一氏(静岡市駿河区)の支援により、シンドゥパルチョーク郡に学校を2校建設。
- ・**トゥリスリー診療所** 1998年
ヌワコット郡トゥリスリーに静岡済生会総合病院の故岡本晃愷元院長がトゥリスリー診療所を建設。

今回の現地視察に先立ち、駐日本ネパール国大使マダン・クマール・バッタライ氏や国際協力機構(JICA)青年海外協力隊事務局の小川事務局長とも会談を行いました。

◇ネパール大地震現地視察報告

大地震によって大きな被害を受けたネパールではいまだに多くの住民がテント生活を送っており、倒壊した建物の復興もなかなか進まず、元の生活を取り戻すにはまだまだ長い時間がかかります。ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク（事務局：静岡県ボランティア協会）では地震発生直後から緊急支援募金を実施しており、静岡県ボランティア協会でも長年のネパールとの関係に鑑み、トゥリスリー診療所とゴルカの女性自立支援施設を応援するための募金を行っております。そうした中で、皆様からいただいたご支援を直接現地にお届けするため、また今後の復興支援に向けた現地調査のため、2015年6月5日から6月11日にかけて現地視察を行いました。本協会からは常務理事の小野田全宏が赴き、前静岡県危機管理監で現静岡大学防災総合センター教授の岩田孝仁氏、一般社団法人減災・復興支援機構理事長の木村拓郎氏、ナマステ・ネパールしずおか会長のマハラジャン・

ナレス氏が同行しました。その現地視察の様子を岩田氏に報告していただきます。

◇現地視察レポート

ヒマラヤ山脈のふもと、ネパール中部のゴルカ地方を震源とするマグニチュード7.8の地震が4月25日に発生した。東西約150kmの震源域は首都カトマンズにも達し、世界遺産となっている古くからの王宮や寺院などが音を立てて崩れる様子を世界中のメディアが伝えていた。2008年に中国四川省で発生した大地震と同様、ユーラシアプレートにさらに陸のプレートがぶつかるプレート境界で発生した大地震である。耐震性の乏しい建物が多く、多数の犠牲者を出したとの情報があり、これまで静岡県民挙げて培ってきた地震防災のノウハウを少しでも現地に伝えることができないものかと考えていた。このような時、静岡県ボランティア協会小野田常務理事からの誘いを受け、6月5日から10日まで現地を訪問し被災地の今の状況を調査するとともに、スシル・コ

イララ首相はじめ政府や市民など多くの関係者と意見を交えることができた。

調査メンバーは、小野田全宏（特定非営利活動法人 静岡県ボランティア協会 常務理事）、木村拓郎（一般社団法人 減災・復興支援機構 理事長）、マハラジャン・ナレス（ナマステ・ネパールしずおか会長）、岩田孝仁（静岡大学防災総合センター 教授）の4名である。

◇首都カトマンズの様子と若者の力

古都カトマンズやパタンの旧市街には、見るからに耐震性の乏しい建物が狭い敷地にまさに壁を接して林立している。鉄筋コンクリートの柱と梁を有す煉瓦造建物が多いが、いかにも柱はか細い。中には柱を持たない石造りや煉瓦造の建物も混在している。住民に聞く



と、最初は2階建て程度で建てても、資金がたまるとうどんどん上層階を継ぎ足していくそうだ。5階、6階は平気で、中には7階、8階建ての住宅もみられる。よく見ると将来の増築に備え初めから上に柱だけ伸ばしている建物も多い。地震で崩れたがれきの多くはそのままで、ひびが入り少し傾きかけた建物には、政府が応急的に軒下から斜めに材木で支えをかませてくれたとのこと。狭い街路を歩くと至る所にこのつかい棒をかませた建物が目立つ。

世界遺産である旧王宮や寺院の多くも激しく損傷し、この貴重な遺産をどうしたら復旧できるのか、しばらくは声も出なかった。しかし市民は本当にたくましい。がれきと化した寺院跡でテント生活をする者、その横の壊れかけた伝統的な門前の店舗ではしっかり商品を並べて営業している。至る所にがれきが散乱したままの中、パタンの旧王宮前ダルバール広場だけは様子が違った。周辺市民総出のボランティア活動で震災直後にがれきがきれいに片づけられたと

いう。地域社会での市民のつながりの強さだけでなく若いリーダーたちが率先して行動したとのことである。

この若いリーダーたちとの縁から、パタンの旧市街のある地区で急遽、防災講習会を行うこととなった。夕方の家事の忙しい中、子ども連れのお母さん方や青年団の皆さん約80人が地区の広場に集まり、防災の基本や地震の時にどう対処するのかなどの話をした。1時間の予定が、質問が絶えず約2時間に及ぶ防災講習となった。地震に備えて家の耐震化や家具の固定、食料などの備蓄をしておく。年に1回か2回は地域みんなで集まって共同で防災訓練をする。そ



カトマンズ市内の様子と若者たち

して地震の時にはうろたえず素早く丈夫な机の下などに隠れる。この3つを絶対実行するようお願いし、皆大きくうなずいてくれた。

市内のちよつとした空き地には避難者がテント生活をしている。カトマンズ中心部の広大な草原には各国の団体やNGOが集中的に支援に入っていた。主に中国政府から提供された大型の家型テントが大量に設置されていて、聞くと、20人以上の避難者が集まるとこの家型のテントが提供されるという。20人に満たないと竹などで骨組を作り応急的にシートをかけた自前のテントしかないとのこと。大型といってもせいぜい10帖ほどの広さである。この避難所だけで約5,000人が生活をしている。



防災講習会

◇カッポン村の学校

カトマンズ北東郊外の丘陵地のカッポン村（現在は急速な人口増で市に）には1991年に県立沼津商業高等学校OB会がOB会設立90周年記念事業として寄贈した学校が建っている。丘の斜面の上に建つ煉瓦造3階建ての学校であり、今回の地震で目立った被害はなかった。応急危険度判定結果の緑マークが表示されている。（赤黄緑の内、緑マークは安全）。地震から約1週間後に政府から派遣されてきた建築士が応急危険度判定を行ったとのこと。カトマンズ市内など主要な地域では地震後約2週間で学校の応急危険度判定を終えたという。



カッポン村の
学校の外観

◇トゥリスリー診療所

カトマンズから山道を70km、車で4時間かけて山間の都市トゥリスリーを訪問した。ここは静岡済生会病院の元院長、岡本晃愷氏（故人）が私財を投じて建設した診療所のある地である。幸い診療所はほぼ無傷で、診療所の医師たちは、地震の時にも多くの人が運び込まれるフル活動したこと、ただし電気が止まり非常電源もないため、せっかくのレントゲン機器が使えなかったこと等を話してくれた。

診療所の活動支援のため静岡県ボランティア協会に集った義捐金50万円が小野田常務理事より地元の運営委員会会長のイシュリ・マン・バイディア氏に手渡された。



トゥリスリー診療所での集合写真

地区の建物は石または煉瓦を泥で固め積み上げた典型的なネパール風建築物で、その多くは損傷している。無傷で残った住宅もあるが、余震への恐怖もあり多くの住民は避難所でテント生活を送っていた。過酷と感じるテント生活であるが、朝になるときちんと制服を着て再開した学校に通う子供たちの姿が見られ、子どもたちの屈託のない笑顔が光っていた。



トゥリスリー市内の様子

トゥリスリー市内の学校



ゴルカの女性自立支援施設

◇**ゴルカの女性訓練所**
震源に近いゴルカは、トゥリスリーからさらに車で5時間の地である。訪問した女性自立支援施設は1998年に静岡の「ぼらの会」しずおか（代表：大石良子氏）の寄付で設立した UNESCO の施設である。斜面に建つ煉瓦造り3階建ての建物であるが、壁などにクラックが入るものの地震の被害は軽微であり、地震後も平常通りの支援活動を続けているとのこと。5人のスタッフを抱え約20人の地元の若い女性を通い、裁縫やデザインなどの職業訓練を行っていた。

◇**首相との面談**
今回の現地調査の最終日には、ネパールのスシル・コイララ首相と面会することができた。民主国家になって初めての憲法制定案を発議する重要な会議のさなかのことであったが、約40分の時間を割いていただいた。82年前（1934年）にネパールは大地震を経験していたが、今回の地震が起きるまで地震対策や防災は全く意識していなかったと本当に正直に話された。今回の地震で防災は重要であると政府も国民も皆意識し、今は、防災と住宅の復旧が重要な課題であるとのこと。また将来に向けた防災教育も重要である。こちらからは、是非、静岡県や静岡大学での取組みを勉強に求められたらどうかと提案させていただいた。
政府関係者と会う中、今回の地震の復興の陣頭指揮を執っているキソール・タパ氏の言葉にはドキッとさせられた。氏は阪神・淡路大震災直後の神戸を視察していて、当時の神戸の市民は食べ物や避難所など衣食住全て政府をあてにしていたことに強く違和感を持って



スシル・コイララ首相との会談

いたようだ。今回の地震でネパールは大きな被害と犠牲者を出したが、ネパールは国民各自が自分で対応し、政府を頼ることなく地震直後から普通に生活している。むしろ、日本もネパールのやり方を見習うべきと思う。
東海地震説以来県民挙げて防災に取り組んできた静岡である。皆分かっているはずの「自助、共助、公助」であるが、最近どうも意識が薄らいでいるように感じて仕方がない。ネパール国民の逞しさは我々日本人も見習う必要があるとも感じた。
現地での調査には、大変多くの方にお世話になった。駐日ネパール国全権大使のマダン・クマール・

ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク

ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワークは、わたしたちの日常生活を突然襲う大規模災害に備え、安全・安心な地域社会づくりへの貢献を目的として活動しています。日本国内の遠隔地およびアジア近隣諸国において大規模災害が発生した際に静岡県から円滑な支援活動を実施するほか、東海地震などの大規模災害発生時に静岡県内の被災地に向けられた支援を受け入れる体制の構築なども視野に入れた広域連携を具体化します。

静岡県ボランティア協会と静岡県は、平常時から静岡県内外の災害ボランティア関係者との情報交換や、地図を用いて防災対策を検討する図上訓練などを繰り返し行って来ました。当ネットワークは、“災害時に取り残される地域をつくらない”ために、そこで培われた全国の災害ボランティアとの「顔の見える」つながりを活かしながら災害時には互いに協力し合い、迅速に救援活動に取り組む広域連携のしくみを整えていきます。

バツライ氏には現地訪問前から様々なアドバイスや調整をいただいた。現地での調査では地元のイシュリ・マン・バイディア氏、クリシュナ・バハドゥール・ラマ氏の両氏に大変お世話になった。心より感謝するとともに、現地の一日も早い復興を願うものである。

（岩田 孝仁）

つなげろ、
ひろげろ、
ひろげろ、
つなげろ、
ひろげろ、
ひろげろ、

ネパールへの支援募金

ネパール緊急支援募金

ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク(事務局：静岡県ボランティア協会)

ふじのくに国際災害ボランティアネットワークでは、ネパールの大地震被害を受け、5/1より7/31までの3ヶ月間、緊急支援募金を実施しております。この募金は、「被災者の生活に必要なテント配布活動」に取り組む国際NGO(特活)アドラ・ジャパンと、被災地の「復興支援活動」に取り組むCODE海外災害援助市民センターに送ります。

【振込先】 郵便振替 口座番号 00820-0-215222

口座名義 国際災害ボランティア支援活動基金

※通信欄に「ネパール緊急支援募金」と記載してください。

6/19(金)現在、90件900,343円の募金をいただいております。ご支援ありがとうございます。

(5/27 アドラ・ジャパンへ300,000円送金、6/7ネパール現地視察にてトゥリスリー診療所関係者に100,000円手渡し)

※募金額の15%を上限に「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の運営費に充てさせていただきます。

ネパール大地震 トゥリスリー診療所・ゴルカ応援募金

静岡県ボランティア協会

カトマンズから北西72Kmのところに位置するトゥリスリー診療所、および震源地ゴルカにある女性自立支援施設は、どちらも本協会の仲介によって建てられ現在まで運営されてきました。5/1より7/31までの3ヶ月間、両施設を支援する募金として「トゥリスリー診療所・ゴルカ応援募金」を実施します。

【振込先】 郵便振替 口座番号 00810-7-113624

口座名義 特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会

※通信欄に「トゥリスリー診療所・ゴルカ応援募金」と記載してください。

6/19(金)現在、16件419,000円の募金をいただいております。ご支援ありがとうございます。

(6/7ネパール現地視察にてトゥリスリー診療所関係者に400,000円手渡し)

※募金額の15%を上限に「本募金実施に係る運営費」に充てさせていただきます。